

現業評議会ニュース VOL.30

第4回 現場からの挑戦にむけ 現業政策集会 全国の仲間と事例を共有し、課題の克服を

現業評議会は7月22日から23日にかけて「第4回現業政策集会」を愛知県名古屋市で開催し、786人（対面739人、ウェブ48人）が参加した。初日は全体会、2日目は各職種に分かれての分科会が行われた。また現業職員の業務内容を地域住民に広く知ってもらうため、政策集会の前段に隣接する鶴舞公園で現業フェアを開催し、波佐見焼の絵付けや竹トンボづくり、パネル展や収集車の展示など各部会から様々なブースを出店した。（現業フェアの内容は裏面に記載）



チャレンジし、仲間と助け合う大切さ

全体会では、講演①として競泳元日本代表の星奈津美さんを講師に招き、「競泳人生で学んだ大切なこと」をテーマに行われた。講演で星さんは、自身の生い立ちに触れ、幼少期から水泳を通じて、泳ぐ楽しさから勝つことの喜びを知り、競泳を続けてきたことを述べた。その中で、バセドウ病を発症し苦悩する中、「当たり前」に感謝することなど、病気になって気づいたこと、また練習に打ち込んだ結果、オリンピックに出場したことなど、自身の経験を伝えた。さらにオリンピックのメダル獲得の裏には、不調に陥った際の「人に弱さを見せる勇気」、チームワークの重要性、具体的な目標設定などがあつたことを挙げた。競泳人生を通じて「心も身体も健康であること」が重要であり、あきらめずに挑戦し続けることが大切とし、現在は新たな取り組みとしてパラ水泳に携わっていることを伝え、講演を終えた。

（写真左上）オリンピックメダルを掲げ、当時の状況を話す星さん

講演②では「自治体業務継続計画（BCP）の実効性を考える」として防災都市計画研究所の吉川忠寛さんを講師に招き、災害対応時の実行性のあるBCPにむけ、どのような点を留意し作成していくべきかについて講演が行われた。具体的な例として学校などの避難所運営を例に挙げ、熊本地震の教訓をもとに多くの事例を紹介しつつ、BCPの実効性向上の必要性を訴えた。



（写真左上）業務継続計画の質の向上の重要性を提起する吉川さん
（写真右上）政策集会の会場に多くの組合員が結集した



「現業評議会 動画まとめ」の活用を

現業評議会では、2021年11月に開催した現業セミナー以降の集会や講演をはじめ、現業・公企統一闘争推進動画、国会質疑などの動画をいつでも視聴できるように「現業評議会 動画まとめ」のサイトを作成しています。

県本部や単組での学習会に使用したり、気になる箇所だけをチェックするなど、様々な場面で利用可能です。QRコードからサイトに移動します。取り組みの強化にむけ、是非とも周知と活用をお願いします。



未来の子どもたちのために 現業フェア 住民に理解、支持される現業職場にむけ



(写真左上) 用務員部会での竹とんぼづくりの様子、それぞれ好きな絵柄を書いて楽しんだ

(写真上右) 一般現業部会の転圧機に触れる体験、子どもたちは普段触ることのない機械に興味津々

現業評議会は、現業政策集会の前段に現業フェアを行い、今回は全ての部会からブースを出展した。

フェアでは、現業職員の業務内容を広範な住民に知ってもらうため、パッカー車の展示、給食調理レシピの紹介、模擬料理体験、竹トンボや廃材工作、波佐見焼の絵付け、サバナたい肥や苗などの配布、転圧機の体験など、工夫を凝らしたイベントを行った。

当日は地域の子どもや家族が多く参加し、様々な体験を通して、現業職員の業務内容を参加者に知ってもらう契機となった。



実際の給食調理器具で重さを体験



(写真上)
波佐見焼の絵付けを体験
(写真左)
参加した子どもは近くで収集車を見て驚いた

フードドライブへの取り組みの御礼

現業政策集会の開催にあたり、フードドライブの取り組みをお願いしていました。

当日は、多くの参加者から食材を持っていただき、合計105点にもものぼる食材が集まりました。集めた食品については、団体を通じて、子ども食堂などに寄贈されます。

皆様のご協力、大変ありがとうございました。